

目指す学校像	1 明るい学校 2 活力ある学校 3 開かれた学校
--------	---------------------------

重点目標	1 「真の学力」の育成を目指した基礎学力の向上 2 教育環境の充実と、生徒指導・教育相談・特別支援の連携強化による児童の心のサポート 3 学校運営協議会での目指す児童の姿について、熟議を重ねた具体的な目標の設定 4 教職員の授業力の向上と健全な職場環境づくり
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		年 度 評 価		学 校 運 営 協 議 会 による 評 価		
年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国・学力学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均を上回っているが、さいたま市平均よりやや低い。 ○全国・学力学習状況調査では、「友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的な回答は、全国平均を上回っている。 (課題) ○市学習状況調査において、家庭学習への取組の状況が市と比べやや低い。 ○全国学力・学習状況調査において、国語、算数の勉強が好きだの質問に肯定的な質問をした児童は全国平均よりもやや下回っている。	・学びの個別最適化に向けた情報端末の活用と授業改善 ・コミュニケーション能力の育成に向けた言語活動の充実	① 学校課題研究において、授業研究の視点に ICT 活用を位置付け、情報端末の活用と授業改善を図る。 ② 家庭との連携を図り、ドリルパークやスタディサプリ等の ICT 教材を家庭学習の充実に努める。	① ICTを活用した研究・公開授業を実施したか。 ② 「『よい授業』集計システム」(第2回)における「ICT活用」の項目について、児童の肯定的回答の割合が80%以上になったか。	①タブレット端末を使用した授業を各教員が意欲的に行った。その授業に伴う研究協議では授業改善に関する改善策が出された。 ② ICT活用に関する、児童の肯定的回答が85%となり、学習に有効に活用されている。	B	・タブレット端末、教育用アプリのより有効な活用法の研究を進める。 ・時期によりスタディサプリの活用には差があった。タブレットの家庭への持ち帰りを進め、年間を通しての活用を図る。	学校運営協議会による評価 実施日令和6年2月13日 学校運営協議会からの意見・要望・評価等
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした割合は、県・全国平均を大きく上回った。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる児童のけが、医療機関への受診は、ともに0件であった。 (課題) ○児童と教師、児童同士、保護者と教師の信頼関係・共感的人間関係をどう築くか、そして維持し、高めていくかを常に考える必要がある。 ○教職員による施設整備の安全点検を確実に行うことに加え、児童数の増加を見越した環境整備が必要である。	・児童一人ひとりへの支援に向けた生徒指導・教育相談・特別支援の連携強化 ・毎月の安全点検、迅速対応並びに環境整備	①心と生活のアンケート及び学校生活に関するアンケートの実施及び見取りを確実にし、児童一人ひとりの状況を適切に把握できるようにする。 ②毎月の生徒指導・教育相談部会やケース会議など SC、SSW、さわやか相談員と連携し、児童への継続的な支援を行う。	①市学習状況調査における学校生活に関する項目において、児童の肯定的な回答の割合が全学年で90%以上になったか。 ②学校自己評価に係る教員アンケートで「生徒指導、教育相談、特別支援」の質問に関する肯定的回答の割合が90%以上になったか。	①児童が充実した学校生活を送れるように教員が日々児童の様子を把握、適切な対応を意識した。学校生活に関して、90%以上の肯定的な回答となった。 ②様々な事案について、教職員等による共通理解・共通行動を意識したことにより、教員による「生徒指導、教育相談、特別支援」への取組に関する肯定的回答はほぼ100%であった。	B	・さいたま市スクールダッシュボードの活用により日々の児童の様子の見取り、個に応じた指導を教職員一丸となり取り組む。 ・特別支援教育推進のためユニバーサルデザインを意識した教育活動の推進を図る。	・きめ細かく生徒指導の児童への対応を行っている。 ・「学校が楽しい」という回答が多いのはよいことである。 ・SSDBの活用により、アンケート実施の見直しをしてもよいのではないかと。
3	(現状) ○昨年度、学校運営協議会を立ち上げ、子どもたちに付けたい力について熟議し、「コミュニケーション能力」と、「正解から納得解を導き出せる力」とした。学校、家庭、地域が協力してこれらの力を児童にどう付けていくか話し合いをした。 (課題) ○コロナ禍のために学校運営協議会で共有した子どもに付けたい力についての浸透及び協働活動を十分に進めることができなかった。	・目指す児童の姿を地域で共有するための教育活動の公開と情報発信 ・学校運営協議会の確実な実施と熟議による家庭、地域、学校の連携強化	①個人面談や授業参観や学校公開の参観の機会を適切に設ける。 ②学校HPの改善を行うとともに、学校安心メール、学校・学年だより等を活用し、児童の活動の様子について積極的に情報発信を行う。	①学校自己評価に係るアンケートで児童、地域、保護者の「めざす児童像」に関する9項目の肯定的回答の割合が80%以上になったか。 ②学校自己評価に係るアンケートで地域、保護者の「授業参観、学校公開」の質問に関する肯定的回答の割合を80%以上になったか。	①9項目の肯定的な回答が80%をやや下回った。しかしながら「挨拶をする」「決まりを守る」「仲良くしている」については90%を超えた。「進んで学習に取り組む」「粘り強く取り組む」の保護者の肯定的回答は低めであり、児童に期待する気持ちの表れが感じられる。 ②コロナ禍よりも保護者、地域の方に来校していただく機会を増やすことができた。「授業参観、学校公開」に関する肯定的回答は96%であった。	B	・学校だより、学年だよりを通し、教育活動や目指す児童像に関わる変容について記載する。 ・運動会や文化祭などの学校行事は多くの保護者に来校していただいた。通常の学習時にも来校していただけるような取り組みを検討する。	・電子での情報発信については、積極的に活用すべきである。メール等届いていない方へのフォローをしっかりと願いたい。
4	(現状) ○エバンジェリストやICT支援員からの各職員からの情報提供をもとに、教職員研修を重ねてきた。 ○高学年での教科担任制の実施により、担当教科の授業力の向上が見られる。 (課題) ○業務へのICT機器の積極的活用について教職員の能力を高める必要がある。	・教職員の授業力の向上と健全な職場環境による目指す教師像の具現化	①授業改善にエバンジェリストによるICT活用に関する情報提供を行う。 ②ICT機器を積極的に活用し、事務処理の効率化を図る。	①学校自己評価に係るアンケートで教員の「研修」の質問に関する肯定的回答の割合が85%以上になったか。 ②学校自己評価にかかるアンケートで教員の「学校は働き方を推進している」の質問に対する肯定的回答が85%以上になったか。	①エバンジェリストを中心とした自主的な研修の実施、教職員自身による教育用アプリに関する研修実施が行われた。「研修」に関する肯定的回答は100%であった。 ②職集時間の変更やICT機器の活用による紙使用削減を行った。「働き方」に関する肯定的回答は約78%であり、さらに改善できることがあると考える。	B	・様々な学校行事の中で計画的な教員の研修時間の確保が難しかった。年間を見通し、効率的な計画を作成する。 ・学年主任、教科主任等の業務量が多くなることもある。教員間のコミュニケーションを積極的に図り、業務量の偏りをできるだけ少なくする。 ・職員間の情報伝達においてICT機器の活用を増やす。	・ICTの活用を積極的に進めたいが、ICTの使用により、教員が、確認すべきことが多くなり、業務量が増えているか心配である。

